

科学技術イノベーション政策における「政策のための科学」
事業全体を牽引・主導するための仕組みの必要性について（案）

平成 24 年 7 月 12 日
文 部 科 学 省
科学技術・学術政策局
政策科学推進室

検討の背景・問題意識について

- 予定されていた各プログラムは平成 23 年度中に全てが開始されているものの、各プログラム間で具体的な連携・協力を図る仕組みがない。
→ 事業全体に共通する目標を設定する必要があるのではないか。
- 各プログラムで産出される成果を政策形成に活かすための仕組みがない。
→ 事業全体の目標に照らして、各プログラムの成果を政策形成に活かすべく、新たな仕組みを検討する必要があるのではないか。
- 各プログラムの成果がいつ、どのような形で成果に結びつくのかが見えない。
→ 上述の新たな仕組みの検討に併せて、各プログラムの計画的かつ効果的な推進を図ることができるよう、各プログラムの工程表を作成する必要があるのではないか。

検討すべき論点とその対応方針について

(論点 1) 事業全体に共通する目標設定

各プログラムの取組を発展させるとともに、各プログラム間での連携・協力・協働作業により相乗効果を高めつつ、得られた成果を政策形成に活かすことができるよう、事業全体の目標を次の通り設定してはどうか。

- (目標 1) 社会経済のグローバル化、世界人口の増加、先進諸国の少子高齢化と途上国の急激な人口増、エネルギー・水・食糧等資源の逼迫、地球環境問題、感染症・テロ問題など、複雑かつ多様な課題が顕在化し、また顕在化していない課題もあるなかで、科学

技術イノベーションによって解決すべき課題を科学的な視野から発見・発掘すること。

(目標 2) 発見・発掘した様々な課題の中から科学技術イノベーション政策によって課題解決を実現しうる政策課題を同定するとともに、政策課題に対して**取り得る政策とその経済的・社会的波及効果及びその影響の分析結果を、複数の政策オプションとして立案できるようにすること。**

(目標 3) また、**立案された政策オプションを政策の決定や実施に活かす等により、政策課題の解決につなげる取組の充実を図ること。**

(用語の説明)

- ・ 「政策オプション」とは、「取り得る政策」と「その経済的・社会的な波及効果・影響評価を定性的・定量的に分析した結果」で構成されるものであり、複数の選択肢として示されるもの(別紙 1)
- ・ 「取り得る政策」とは、複数の「政策手段」の組み合わせからなるもの

また、事業全体の目標設定に際し、次の諸点への留意が必要。

- 事業全体の目標達成に向けて各プログラムの取組が最大限貢献するように調整を図るとともに、これまで推進委員会において示されている方針等(別紙 2)にも配慮すること。
- 政策課題の解決のためには、多様な科学的知見を結集させることに加えて、科学技術だけでは解決できない事柄があることを十分認識すること。
- 政策オプションの立案プロセスや政策の決定プロセスにおいては、科学性の担保が必要であり、それが透明性の確保や国民の合意において重要な基盤をなすこと。

(論点 2) 事業全体の目標達成を牽引・主導する新たな仕組みの構築

(論点 1) に掲げられた事業全体の目標達成に向けて、各プログラムの取組を一体的に牽引・主導するためには、新たな仕組みとして新規プログラムの立ち上げやそのための体制整備等を検討する必要があるのではないか(別紙 3)。

また、新たな仕組みとの整合を考慮しつつ、各プログラムの計画的かつ効果的な推進を図るべく、各プログラムの工程表を作成する必要があるのではないか。(別紙 4)

- ① 目標 1 に照らして、科学的な視野から課題を発見・発掘できるようにするため、NISTEP のデータ・情報基盤の取組や JST・CRDS の科学技術俯瞰図の取組等、科学的基盤に関連する取組のさらなる連携強化を図ることにより、俯瞰的かつ多様な学問領域にまたがった科学的知見の基盤強化を図ること。
- ② 目標 2 及び目標 3 に照らして、政策オプションの立案とともにそれを政策形成プロセスの活用につなげるようにするため、具体的な政策課題に即した「政策オプション」の立案を実践するための新たなプログラムの立ち上げを検討すること。その際、上記①の機能をこの仕組みにビルトインさせること。

(論点 3) 新たな仕組みの構築に向けた準備

平成 25 年度から新たな仕組みの構築を円滑に行っていく観点から、平成 24 年度に FS（フージビリティ・スタディ：実現可能性検討）を行ってはどうか。その際、以下の方針で検討を進めていくことによいか。

- ① FS の主目的は、平成 25 年度以降本格的に着手できるよう、「政策オプション」の立案を実施するための機能や体制についての実現可能性の目途を得ること。
- ② FS で試行する具体的な政策課題については、グリーンイノベーション及びライフイノベーションからそれぞれ 1 課題ずつ選定※するとともに、平成 25 年度以降、FS の成果も踏まえつつ科学技術イノベーション政策全体を俯瞰しつつ、改めて具体的な政策課題の追加の検討を行うこと。

※ FS における政策課題（2 課題）の選定理由

- ・ 新成長戦略や第 4 期科学技術基本計画等の政府の示す方針において、グリーンイノベーションやライフイノベーションは共通して主要な柱として位置づけられるとともに、イノベーションを実現する上で科学技術の進展・発展が果たす役割・貢献が期待できるため。（別紙 5）なお、具体的な政策課題については、今後ふさわしい政策課題を詳細に検討する必要がある。